

## 1. 調査目的

市では、地震などの災害発生時に迅速な対応ができるよう相模原市地域防災計画を策定し、防災対策の推進を図っている。先般の東日本大震災での経験や課題、日頃の防災に対する意識を把握し、今後の市の防災対策の貴重な資料としていかすために調査を実施した。

## 2. 調査設計

- (1) 調査地域：相模原市全域
- (2) 調査対象：20歳以上の男女個人
- (3) 標本数：3,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳からの等間隔系統抽出
- (5) 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収法）
- (6) 調査期間：平成24年2月9日（木）～2月21日（火）
- (7) 調査機関：株式会社 サーベイリサーチセンター
- (8) 有効回収数：1,432票（47.7%）

## 3. 調査内容

<調査項目>	<問番号>
(1) 基本的項目について	問1～問3
(2) 東日本大震災の発災当日の状況	問4～問8-3
(3) 災害時の備え	問9～問15（5）

#### 4. 地区別回収構成比

	有効回収数	回収構成比
総数	1,432	100 (%)
橋本地区	155	10.8
大沢地区	55	3.8
城山地区	52	3.6
津久井地区	61	4.3
相模湖地区	16	1.1
藤野地区	22	1.5
小山地区	28	2.0
清新地区	31	2.2
横山地区	30	2.1
中央地区	207	14.5
星が丘地区	24	1.7
光が丘地区	38	2.7
大野北地区	66	4.6
田名地区	49	3.4
上溝地区	59	4.1
大野中地区	86	6.0
大野南地区	163	11.4
麻溝地区	36	2.5
新磯地区	26	1.8
相模台地区	68	4.7
相武台地区	45	3.1
東林地区	77	5.4
(無回答)	38	2.7

## 5. 報告書の見方

- ・表、グラフ中の「n」は、各設問に対する回答者数を示している。
- ・百分率（%）の計算は、「n」を分母とし、小数第2位を四捨五入して表示している。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフ中は、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が20未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・過去の調査と比較したグラフでは、文言や表現が異なる場合は注釈で表示しているが、回答に影響を与えない程度の違いの場合は注釈を省略している。

## 6. 標本誤差

この調査の標本誤差は次の式によって得られる。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差  
 N = 母集団数  
 n = 比率算出の基数（サンプル数）  
 P = 回答比率

本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率(P) n	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
1,432	±1.59%	±2.11%	±2.42%	±2.59%	±2.64%
1,000	±1.90%	±2.53%	±2.90%	±3.10%	±3.16%
800	±2.12%	±2.83%	±3.24%	±3.46%	±3.54%
500	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
100	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%
50	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

※ 上表は  $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$  として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

(注) この表のみかたは次のとおりである。「ある設問の回答者が、1,432人（n）であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%（P=0.6）であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.59%以内である。」